

支 部 便 り



東北支部
支部長
春浪隆夫

東北支部では、平成28年度の「東北支部総会・特別企画ならびに懇親会」を平成29年3月3日（金）に、電気通信研究所本館で開催いたしました。総会では、川又政征支部長の御挨拶の後、平成28年度事業報告ならびに会計報告が承認されました。次いで、平成29年度の支部役員として、支部長に私（春浪隆夫）、幹事に片桐崇史先生と吹留博一先生が選出された後、平成29年度の事業計画および予算案が承認されました。総会に引き続き、特別企画として、春・秋の叙勲で受章された中村慶久先生、舛岡富士雄先生、高木相先生、中鉢憲賢先生の講演が行われました。他では考えられない豪華な講演会となり、参加した学生会員からも大変貴重な経験であったとの声が聞かれ、電気系同窓会の重みを感じた印象的な講演会となりました。懇親会では、受章された先生方への花束贈呈や新旧役員をはじめ多数の同窓生のスピー

チがあり、和やかな雰囲気の中で会員の親交を深めることができました。

平成29年3月24日（金）には平成28年度の「卒業祝賀会ならびに同窓会新入会員歓迎会」が、約270名の出席のもと青葉山の電気・情報系101大講義室において開催されました。卒後祝賀会では、冒頭に電気・情報系運営委員長の川又政征先生と電気通信研究所所長の大野英男先生からの祝辞、西関隆夫名誉教授の御発声による乾杯で卒業・修了を祝い、成績優秀学生を表彰し讃えました。続いて同窓会新入会員歓迎会では、平成29年度同窓会副会長の根元義章名誉教授から入会歓迎の御挨拶があり、伊藤彰則本部幹事からは激励の言葉を賜りました。歓談を挟んだ後、学部卒業生・大学院博士課程前期・後期修了生の代表3名から答辞があり、最後に津田理先生の万歳三唱で新入会員の門出を祝いました。

今後とも、母校のある仙台に拠点を置く支部として、同窓会活動のより一層の充実を目指していきたいと考えております。引き続きご支援とご協力をお願い申し上げます。



東京支部
支部長
岸本光弘

インターネットやクラウドが広く普及し、IoT技術により従来利用できていなかった大量のデータが収集・活用できるようになりました。ビッグデータの処理技術や人工知能の進展により、既存のサービス・ビジネスとは違う、新たなサービス・ビジネスが多数生まれています。第四次産業革命もしくは、ソサイアリティ5.0がめざす新しいビジネスや社会は、既存企業の仕組みや、従来の枠組みでの技術開発では実現できません。従来の会社組織や、業界を超えた交流・インタラクションが必要になり、それには企業や業界の垣根を越えた人間のネットワークが必要で、本同窓会はまさにそのような人間ネットワークを作り出し発展させる場であると考えています。

東京支部では、2017年9月8日に、学士会館で東北大学電気・通信・情報同窓会総会および東京支部総会を開催しました。関係各位のご尽力のおかげで、今年度の総会は教官と同窓生を合わせて100名を超えるかたに参加いただきました。近年、総会参加者は減少傾

向にありましたが、昨年度（2016年度）の菅谷前支部長の回には前々回（2015年度）比で3割増を実現し、今年度はさらに多くの教官・同窓生の皆さんに参加いただけました。歴代幹部会社を中心とした企業の卒業生ネットワークでの呼びかけ、研究室ネットワークによるご案内、本部・支部のご尽力、若手の口コミなど関係者のご努力にあらためて感謝申し上げます。次回以降も参加者の増加傾向が継続し定着していくように皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

今年度から同窓会会長には小野寺正様（電昭45、KDDI(株)取締役会長）が、副会長には根元義章様（電昭48、東北大学名誉教授、青葉工業振興会理事長）が就任されました。また、長きにわたって同窓会役員を務められた野口正一前会長、寺西昇前副会長、小泉寿男前会長補佐におかれましては、長きにわたり同窓会を盛り上げていただき大変ありがとうございました。この場をかりまして、あらためてお礼を申し上げます。

東京支部独自の活動として若手交流会を開催しています。若手交流会は野口前会長のご発案で、若手同窓生の人材育成、企業を超えた横の同窓生ネットワーク構築、先輩と後輩の縦の結束力の強化、将来の同窓会幹事の育成を目的に毎年開催しています。今年度は5回目となり2017年12月9日（金）に学士会館で開催

予定です。

東京支部は同窓会活動を推進することで、同窓会の活性化と会員同士の結束の更なる強化を推進する場を

提供してゆく所存です。引き続き関係各位のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

退職教授のご紹介



庭野道夫先生
ご退職

電気通信研究所ナノ分子デバイス分野の教授として研究と教育に尽力されました庭野道夫先生が、平成29年3月31日をもって定年により本学を退職されました。

先生は昭和26年10月に東京都でお生まれになり、昭和50年3月に東北大学理学部物理学科を卒業され、その後同大学院理学研究科に進

学され、昭和55年3月に理学博士の学位を取得されました。日本原子力研究所核融合特別研究生、宮城教育大学助手を経て、昭和62年1月に助手として東北大学電気通信研究所に着任され、平成10年4月に教授に昇任されました。平成19年から7年間は副研究所長を、平成25年から4年間はナノ・スピン実験施設長をお務めになりました。本年3月に定年退職されるまでの30有余年の間、学術研究及び教育、研究所の管理運営において尽力し多大な功績を遺されました。

庭野先生のご研究は、半導体電子工学から赤外分光法、有機エレクトロニクス、バイオエレクトロニクスと幅広い分野にわたりますが、常に異分野融合を目指した新しい研究領域の開拓に尽力されました。特に、独自に開発された表面赤外分光“その場”観察法を駆使して、半導体デバイス表面で起こる微視的な化学反応プロセスや界面構造の解析を精力的に行われました。

また、バルブ金属やシリコンの陽極酸化により形成される多様なナノ構造に注目され、有機・無機ハイブリッド型太陽電池、高感度ガスセンサやナノバブル発生装置などの新しいナノデバイスを実現されました。バイオ計測分野では、表面赤外分光法を活用して、DNAの諸反応、抗原・抗体反応、細胞アポトーシス(計画死)などの生体反応の実時間“その場”観察を初めて成功させ、半導体・バイオ融合領域を切り拓きました。さらに、有機薄膜太陽電池の電極界面の最適化や有機トランジスタのキャリアドーピング機構の解明に表面赤外分光法を活用し、これらの有機デバイスの性能向上に貢献されました。

以上のような研究業績に対しまして、平成22年度に日本表面科学会フェロー、平成24年度に応用物理学会フェローの表彰をお受けになり、平成27年度には日本表面科学会学会賞を受賞されています。学会活動においては、応用物理学会理事、日本表面科学会理事、日本神経回路学会理事などを歴任されました。

庭野先生はとても気さくなお人柄で国内外の研究者や学生から慕われております。また、趣味のランニングでは1日に10km以上も走られる程お体を鍛えられており、今も気力と体力に満ち溢れていらっしゃいます。ご退職後も、東北福祉大学感性福祉研究所の特任教授として研究にご尽力されています。これまでのご指導、ご鞭撻に心より感謝申し上げますとともに、今後の先生のご健勝とますますのご活躍をお祈り申し上げます。(平野 愛弓 記)



一ノ倉理先生
ご退職

工学研究科電気エネルギーシステム専攻エネルギー変換システム分野の教授として、研究と教育にご尽力された一ノ倉理先生が、平成29年3月31日をもって定年により退職されました。先生は、昭和26年8月に岩手県盛岡市でお生まれになり、盛岡第一高等学校を経て、昭和50年3月に東北大学工学部電気工学科をご卒業された後、昭和55年3月に博士課程

を修了され、工学博士の学位を取得されました。同年4月には工学部電気工学科の助手に採用され、助教授を経て、平成7年10月に応用電力工学講座の担当教授にご着任されました。平成9年4月には大学院重点化に伴い、電気・通信工学専攻パワーエレクトロニクス分野に配置換となり、平成24年4月からは同専攻の改組により、電気エネルギーシステム専攻エネルギー変換システム分野をご担当されました。その間、先端電力(東北電力)寄附講座運営委員会委員長を平成17年4月から約7年間、レアメタル・グリーンイノベーション研究開発センタークリーンエネルギー関連デバイス部門 部門長を平成26年1月から約2年間、そ